

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102550
法人名	有限会社らく楽
事業所名	らく楽一宮
所在地	香川県高松市一宮町1568番地1 (電話)087-815-6001

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価決定日	平成20年6月27日

【情報提供票より】平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月11日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	28人	常勤	17人 非常勤 11人 常勤換算 21.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	16,500円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 平成20年4月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	8名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.6歳	最低	58歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松平和病院、おさか脳神経外科病院、はまもと医院、生協へいわ歯科診療所
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には田畑や民家と、環境のよい場所にあり、一部2階建てのホームである。利用者同士が共に支え合い生活する中で、職員が寄り添う雰囲気、の温かさがうかがえる。家族への報告も本人の写真付きで毎月行われ、家族の安心感につながっている。地域とのつながりが利用者の暮らしに大切なことを理解し、よい関係づくりに努力している。医療機関との連携も確保されていて、安心した生活が送れる体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流を深めるよう改善課題があり、地域との行事の参加は改善されてきたが、自治会への入会などの近所付き合いは、努力中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をすることによりホームのあり方、業務の見直しの機会とし、質の向上につながると理解し取り組んでいるが、職員全員が関わることが望ましい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月ごとに開催される運営推進会議では、ホームの状況報告が行われ、メンバーから意見をいただきサービスの質の向上に活かしている。今後とも、外部の方達の意見を聞ける機会であり、ホーム内で解決の難しい事項については議題として提案し、助言をいただきサービスの質の向上につなげてほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは、毎月利用者のホームでの暮らしを写真付きで報告し、面会時に声かけをし意見をうかがうよう努めている。いただいた意見、苦情などは職員で話し合い、対応すると共に運営に反映させ記録に残している。現在、家族会再開を検討中であり、より一層、家族の意見がいただけるものと期待している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事での交流や幼稚園、小学校の行事への参加、および、散歩時の地域の方々への声かけなど地域との連携を図っている。自治会への入会も根気よくお願いし、ホームの理解を深めていただけるよう期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の安心できる共同生活への支援や各自の能力発揮の援助など、独自の理念をつくりあげているが、地域の中で暮らすためのホームとしての理念はあげられていない。	○	利用者が今までの生活のつながりを持ち、地域の中で生活できる支援の大切さを認識して、理念の再考が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼時理念の唱和や、介護を行う中で理念に立ち返って、日々の業務に取り組んでいる。しかし、代表者との理念の共有が不十分である。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事での交流や幼稚園、小学校の行事への参加、および、散歩時の声かけなど地域との連携を図っている。自治会への入会も根気よく努力中である。	○	地域の一員として、相互に交流ができる関係づくりを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を行うことにより、ホームのあり方、質向上の見直しの機会ととらえて、改善策にも取り組んでいる。	○	自己評価を行う際、管理者だけでなく、職員全員で関わって、日頃の介護のあり方を具体的に見直す機会として、質の向上につなげてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催される運営推進会議では、ホームの状況報告がされている。今回、メンバーから出された、家族会再開の意見などホームの運営につなげている。	○	運営推進会議は外部の方の意見をいただける機会であり、ホーム内で解決が難しい事項について、立場の異なるメンバーからの助言をいただき、ホームのサービス向上に活かせるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加や、市担当者との日頃の交流を持ち、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月健康面、日常生活、行事、金銭出納などホームでの暮らしぶりを、本人の顔写真付きで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡時に家族の意見、要望、苦情を聞くよう努めている。いただいた事例には職員で話し合い対応すると共に、記録に残しホームの運営に反映している。また、中断している家族会の再開を検討しており、一層家族の要望が聞ける機会となるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全ユニットの利用者の交流が円滑に行われる目的で、全ての箇所(ユニット)での業務経験をする体制としているために、採用時の内部異動が多い。受け持ち制でなく、他の職員でカバーしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護関連の外部研修は、出張扱いで順次受講している。内部研修では事故発生時の対処法をテーマに、職員会議後行っているが、採用時の段階的な研修は行っていない。	○	採用時、全ユニットを経験する体制としているホームなので、新人の育成には、システムに沿った段階的な内部研修を計画し、ホームの質向上に貢献できる職員の育成を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで知り合った同業者と、交流の機会を持ち、相互にサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用相談時、家族のホーム見学やホーム職員による自宅訪問により、少しでも馴染めるよう家族と相談しながらサービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を一方的に介護される側におかず、年配者として、生活の知恵を教わるなど、共に支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から暮らし方の思いを聞くと共に、普段の会話やテレビを見た反応などから、暮らし方の意向を把握し、その人らしい暮らしの支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃本人と接するなかで、どのように暮したいかの意向を知り、面会時、家族の要望を聞き、関係職員が話し合い、意見を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間は通常6か月としているが、毎月アセスメントを行い、変化をチェックし、課題とケアのあり方を確認している。状態変化時はその都度、本人、家族、関係者とも話し合い、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、買い物など要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どが利用前のかかりつけ医から、ホームの協力医療機関への受診を希望している。大学病院受診などの場合は、家族の都合により支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向け、利用者、家族、主治医などの関係者と話し合っている。前例はないが、希望があればホームでの看取り支援も検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような対応は見られない。利用者の名前の呼び方も、利用者、家族が呼ばれて心地よい呼び方に配慮している。また、職員は個人情報保護の理解をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でもその人らしい生活の流れを大切に、希望に沿えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は給食センターの食事を、利用者と職員が盛り付け配膳し一緒に食事をしている。また、月4回の昼食は、利用者の好みの献立で食事作りをし、利用者と職員が共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回の入浴を楽しめるよう利用者の状態に合わせて支援している。風呂嫌いの利用者には、無理強いないで根気よくタイミングをみて誘導し、入浴後には気持ちよかった、との言葉も聞けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳、片付け、食器洗いなどを自主的に役割として行ったり、詩吟、手芸、ぬり絵、野菜づくりなど個々に合った楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回は、ホーム近辺へ徒歩や車いすで出かけ、地域のひととの交流や田畑の自然を楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や昼間の玄関の鍵はかけていない、職員は鍵をかけることの利用者への弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、消火・避難訓練を行っている。しかし、2階のユニットは転落防止のため階段は施錠している。夜間災害時を想定しての避難訓練は不十分である。地域の人々の協力が得られるよう働きかけをしている。	○	階段が施錠されているユニットは、安全な避難に向け利用者、職員との訓練の継続が望まれる。また、地域の協力が得られるよう運営推進委員会議に働きかけるなど、根気強い取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食センターから配達された食事を各ユニットで、個々の食べる量などを配慮して、盛り付け配膳している。食事や水分の摂取量は確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家屋を感じさせる玄関を入ると、季節の花や手芸品が飾られ、和む雰囲気である。ホーム全体に自然光が取り入れられ、不快な音や匂いはない。居間兼食堂にはソファが置かれ、居心地のよい共同空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類などは備え付けのクローゼットに整理され、好みの座卓や椅子を配し、手芸の作品や写真などを飾り、個々の利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		